

5月上旬の2015卒就活状況調査レポート	1
～2015年卒『就職活動モニター調査』(2014年5月発行)より～	1
1. 5月1日現在の内定状況	1
2. 未内定者の今後の見通し	1
3. スケジュールへの意見	2

5月上旬の2015卒就活状況調査レポート

～2015年卒『就職活動モニター調査』(2014年5月発行)より～

5月は、最終面接を受けた学生が全体の7割を超え、内定を受けた学生は全体の5割を超えるなど、就職活動のピークとなっています。就職活動を継続している学生も、企業へのエントリーは活発で、引き続き就職活動は活発な様子が窺えます。ただ、この時期になると、活動の中心は大企業から中小企業へとシフトしており、徐々に就職活動全体が終盤にさしかかっていると言えます。

1. 5月1日現在の内定状況

5月1日現在のモニターの内定率は53.0%で、前年同期を7.2ポイント上回りました(図1)。5月の内定率が50%を超えるのは、2010年卒者以来5年ぶりとなります。先月調査でも内定率は前年同期を4.6ポイント上回っていましたが、今回は前年同期より7.2ポイント上回りました。また、内定者のうち、就職

先を決定し活動を終了したのは62.0%。前年より4.7ポイント増えており、内定先への満足度が高まった感がうかがえます。

2. 未内定者の今後の見通し

内定を得ていない学生(モニター全体の47.0%)に、今後の見通しを聞いたところ、最も多いのは「選考中の企業はあるが内定をもらえるかどうかはわからない」で、63.2%(前年64.8%)でした。一方、「近々内定がもらえる見通しが立っている」は、8.6%で前年より3.4ポイント増えている結果でした。(図2) また未内定者の現時点で活動の中心としている企業の規模を聞き、全モニターに3月に聞いた調査と比較すると、「中堅中小」「規模にこだわらない」との回答が3月調査より大幅に多く、中堅中小へシフトしているといえます。

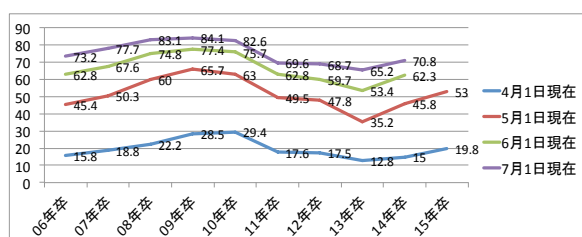


図2 内定率の推移

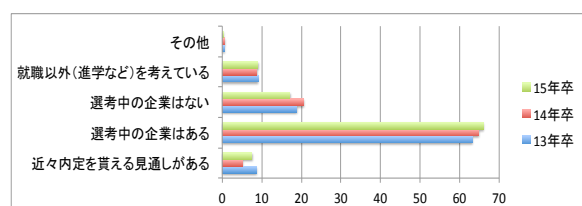


図1 内定を得る見通し

3. スケジュールへの意見

企業の採用広報開始が12月であることに対して、学生がどう捉えているかを聞いたところ、約6割が「適している」と判断。その理由として、企業研究などのために「春休みを有効に活用できるから」という意見が目立ちました。中には、「適している」と答えながらも、「12月になってから始めるのでは遅く、事前の対策が必要」とのコメントも少なからず寄せられました。また、2016年度から就職活動の解禁時期が「3年生の3月」へと3カ月繰り下げられること(2016年卒者から適用見込み)について、就活生の立場から賛成か反対かと聞いたところ、反

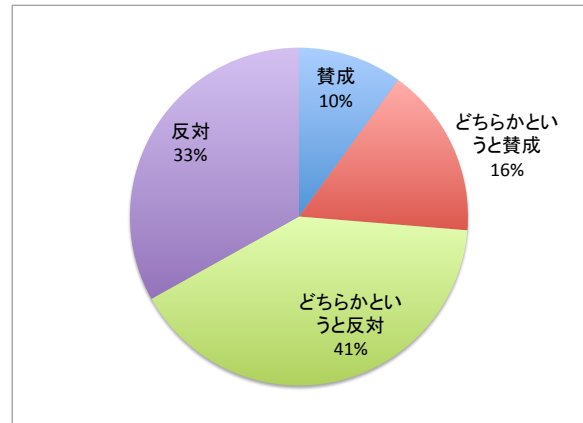


図3 就活の3月解禁について

対意見が多く、時期が遅くなることに純粹に懸念を覚えるという声が目立ちました。(図3)

(株式会社ディスコレポートより抜粋)